




收受年月日	議 長	事務局長	書 記
30.5.28			
第 25 号			

平成 30 年 5 月 28 日

埴町議会議長 大縄武夫 様

経済常任委員会委員長 鈴木 茂



所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第 77 条の規定により報告する。

記

1 調査事件 埴町商工会町補助金等について

2 調査の経過

本委員会は、埴町商工会補助金の使途内容について担当課から聞き取り調査を行った。

- (1) 調査日 平成 30 年 5 月 16 日(水) 9:59~11:30
- (2) 出席委員 鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、
下重義人、鈴木孝則
- (3) 説明員 まち振興課長、商工観光係長
- (4) 職務出席者 大縄武夫議長、議会事務局長、書記
- (5) 場 所 委員会室

3 調査の結果

埴町商工会補助金等について

- 1) 商工振興活動事業補助金(平成 27~29 年度)
補助金額 850 万(H27 ~ 29)
- 2) 埴町中心市街地活性化事業補助金
H27 年 80 万
H28 年 80 万
H29 年 60 万
- 3) 地域消費喚起生活支援型(プレミアム商品券発行事業)
補助金額 H27 年 19,965,250 円<国庫補助>

4) 通常総代会事業報告書、収支決算書 H27~29年度

担当課より各事業の内容、金額の明細について説明を受けました。その他総会員数、地区別会員数、各部会及び役員、各委員会及び活動内容についても説明を受けました。

質疑に入り家屋費の具体的内容や、会員数の増減、年会費の額などが質問された。また、青年部が行っている婚活事業は成果があったかなどについても質問があった。次に意見交換に入り、各事業が毎年同じメニューで慣例的にやることに疑問がある。商工会の新たな自主財源の確保（農産物や物産品を道の駅などで売る）について指導を町がやるべきではないか。商工会は意識改革が必要であり新たな形態での存続も考えなければならない、などの意見が出された。

まとめとして、今後補助金の支出額を見直す時期が来るものと思われる。その時に一律にカットするのか、監査委員の指摘のように必要性、公益性、妥当性などを鑑みメリハリをつけたものとするのか、課題になるとと思われる。

(2) 委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.5.30	議員派遣	委員派遣	調査研修等報告書
第 号			

様式 1

平成 30 年 5 月 16 日

議会議長
委員会委員長

提出者 鈴木 孝則

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	平成 30 年 5 月 16 日	派遣先 (場所)	委員会室
内容	埴町商工会補助金等について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>いかなる補助金も数年ごとに費用対効果を検証するべきでありそれによって増額・減額や持続・中止を検討しなければならない。</p> <p>議員自身が関係する職業や所属団体などを考慮し、また議員間での遠慮や次回の選挙を意識したりとかが検証や深掘した議論を妨げてしまうようなことがあってはならない。</p> <p>補助金の使途や有効性を議論する以前の問題として私も含めた議員ひとりひとりの意識改革をしなければ議論する意味が薄れてしまうと思う</p>		

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.5.22	議員派遣	委員派遣	調査
第 号	大縄	鈴木	根本

様式 1

研修等報告書




平成 30 年 5 月 22 日

大縄 武夫 議会議長
鈴木 茂 委員会委員長 様

議長 鈴木

提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	埴町商工会補助金について (まち振興課)		
派遣の 日時	平成 30 年 5 月 16 日	派遣先 (場所)	委員会室
内容	1、埴町商工会運営状況及び収支について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1、青年部 29 名と少なく、会員数も年々減少傾向にある。</p> <p>2、平成 29 年度運営補助金として埴町から 8,500 千円支出されているが、矢祭町は同年度 700 千円と少ない。平成 30 年度予算で、棚倉町は 7,260 千円、鮫川村は 4,558 千円となっている。特に矢祭町の商工会活動は補助金が少ないから問題になっているとは聞こえて来ない。</p> <p>3、収入財源の 44,338 千円の内、町からの補助金は 8,500 千円と 19,17% で、依存割合が高い。</p> <p>4、年次行事も多いが慣例化して消化予算の様に思える。婚活イベントやその他の実績も聞かない。各事業終了後、実績報告の評価を町執行部はどの様に評価し関与しているのか、情報が少ないので、町民が判断できない。</p> <p>5、将来的に行財政財源が見込めるない中で、商工会も「自主財源確保に努める」との話も聞くが、具体的計画の説明が欲しかった。天栄村の商工会は特産品販売で、天栄米や農産物の販売支援に成功し、ブランド米としての実績を残している。埴町商工会も財源確保の為に、業種を越えて農業者と連携で農産物の販売や加工品の開発を行うことや、町内空き家対策事業への積極的関与及び、空き店舗の事業化にも積極的に取り組むべきである。</p> <p>6、補助金は悪いことではないが、補助金を使うのであれば選択と集中を戦略的に行うべきであるなどの意見もあった。</p>		

收受年月日	議長	事務局長	書記
20.5.17			
第 号			

経済常任委員会所管事務調査報告書

議長 

提出者 鈴木茂

日時 平成30年5月16日

場所 委員会室

埴町商工会補助金等について

1) 商工振興活動事業補助金(平成27~29年度)

補助金額 850万(27 28 29)

2) 埴町中心市街地活性化事業補助金

H 27年 80万

H 28年 80万

H 29年 60万

3) 地域消費喚起生活支援型(プレミアム商品券発行事業)

補助金額H27年 19,965,250円

4) 通常総代会事業報告書、収支決算書

H27~29年度




説明員 まち振興課長 係長


担当課より各事業の内容、金額の明細について説明を受けました。その他総会員数、地区別会員数、各部会及び役員、各委員会及び活動内容についても説明を受けました。

質疑に入り家屋費の具体的内容や、会員数の増減、年会費の額などが質問された。

又青年部が行っている婚活事業は成果があったかなどについても質問があった。次に意見交換に入り、各事業が毎年同じメニューで慣例的にやることに疑問がある。商工会の新たな自主財源の確保(農産物や物産品を道の駅などで売る)について指導を町がやるべきではないか。商工会は意識改革が必要であり新たな形態での存続も考えなければならない、などの意見が出された。

まとめとして、今後補助金の支出額を見直す時期が来るものと思われる。その時に一律にカットするのか、監査委員の指摘のように必要性、公益性、妥当性などを鑑みメリハリをつけたものとするのか、課題になるものと思われる。

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.5.18			
第 号			

議長  経済常任委員会所管事務調査報告書

提出日：平成30年5月18日（金）

提出者：藤田 一男

1. 調査概要

- ①調査実施日：平成30年5月16日（水）
- ②調査場所：委員会室
- ③調査内容：埜町商工会補助金等の調査

2. 調査所感

商工会への補助金、800万円と中心市街地活性化補助金60万円の妥当性について調査しましたが、商工会は公共的な団体であり、利益を求める事を目的とはしていません。又近隣の町村と比べるのはその町村によって活動内容が違うので比べるのはおかしいのではないかと。流灯大会、産業祭の運営は商工会がしており、特に産業祭は前は商工会青年部が実施していたのが、町で実施することになったが、運営は商工会に押し付けて要るのが実態であり、町の活性化を担う為にも必要であると思われる。

商店が後継者不足で衰退していく中、会員数は現状を維持している努力は認めるものです。今後なお一層の努力を望むものである。

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.6.7	議員派遣	委員派遣	調査
第 号	議	調	本

研修等報告書




平成 30 年 6 月 7 日

議会議長
委員会委員長

様
議長 

提出者 新貝 新一

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会 所管事務調査		
派遣の 日時	平成 30 年 5 月 16 日	派遣先 (場所)	委員会室
内容	旗町商工会補助金等について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	補助金ありきか前提であると消化が 事業の本筋となり自力で活路を みいだす意識や想像力が欠如しており		

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.5.28			
第 号			

様式1

調査研修等報告書

平成30年5月28日

議長
委員会委員長
様

提出者 下重 義人

派遣目的 (調査等名称)	経済常任委員会所管事務調査		
派遣の日時	平成30年5月16日 10:00～12:00	派遣先 (場所)	派遣所委員会室
内容	埴町商工会補助金等について		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>埴町商工会の補助金等に関して、まち振興課長より内容説明を受けました。</p> <p>補助事業等実績報告書などは、ここ数年、ほとんど変わりがなく、埴町商工振興活動事業資金報告書も同様でした。</p> <p>ある反面、人口減少に伴い商工業の維持的なものは、困難と思われます。</p> <p>埴町中心市街地活性化事業の各イベントなどは、経費が掛かり収入が支出を上回っているのが現状ですが、このようなイベントは町の顔でもありイメージアップを図る為にも、大変でも継続して貰いたいと思っています。</p> <p>町から補助金ができるから行動するのではなく、自ら行動を起こし補助金のアップを要望するような気持ちが必要ではないかと感じられました。これからの活動を期待したいものです。</p>		

30.5.18



第 号

調査・研修等報告書

氏名 敬 氏名 敬 林達信 提出年月日 平成30年5月17日

調査等名称 総務常任委員会 所管事務調査

調査等の日時 平成30年5月16日 場所 委員会室

調査等の内容 1. ためが保育室の現状について
2. こども園建設進捗状況について
3. すきめ公園の現状について

意見感想 ためが保育室は区内ならではの柔軟さで多くの子供達を預かって来たためが町のこども園建設で閉園することになった。経営は難しいと話していた。34年間大変でした。感謝。こども園は順調のようだった。すきめ公園も問題なさそうだった。